

輪唱の進め方（モデル・プログラム）

対象：デイサービスセンターの利用者 20～30 名

時間：10 分程度

形態：2つのグループ。4～6名程度ごとに、テーブルの回りに座って、2
テーブルを1つのグループとする。

3回～10回程度の利用日の中で3つのクールにわけ、プログラムを進める

目的：達成感を味わってもらい、協調性をもってもらい

プログラムの流れ・進め方（第1クール 1～3回程度の利用日の中で）

リーダーが、「メロディーのきれいな曲があるので、是非歌ってみましょう」と“虫の音”を1回歌う（範唱）

「それでは、私が歌ったら、後に付いて歌ってください」と言葉をかけ、最初のフレーズから範唱・模唱を繰り返していく（3回程度繰り返す）

「しっとりとした良い曲ですね。虫の音を楽しむ日本の伝統を感じられますね」などと曲想（1）を伝える。

リーダーが「庭先でずかかに虫の音を楽しんでいるような心持ちで歌いましょう」などと言い、最初のフレーズを歌う。

続けて“虫の音”を斉唱する（リーダーは歌詞コールで支援する。2回程度繰り返す）

「情感がこもっていてすばらしい歌声を聴かせていただきました」といった肯定的な言葉かけのあとで、「今度は最後をのばしてみましようか」と言葉をかけ、もう一度斉唱（十分に最後の部分をのばす練習をする。2回程度の斉唱を繰り返しながら）

「最後の部分は、思わず聞き惚れてしまいました」といった肯定的な言葉かけをする。その後、「皆さんにもききほれてもらいましょう」と2つのグループにわけ、交互に斉唱する（2回程度）

「大変きよらかな虫の音でした。最後にもう一度みんなで歌ってみましよう」と言葉をかけ、全員で斉唱する（2回程度）

プログラムの流れ・進め方（第2クール 1～5回程度の利用日の中で）

第1クールのように、範唱・模唱で1回練習し、その後歌詞コールで支援しながら2回程度斉唱する。（同時発声・同時終止に留意する。また、同時終止の時に、最後の音を十分のばす）

「相変わらずよい虫の音ですね。ちょっと2つに分かれて歌合戦をしてみましようか」などと言葉をかけ、グループを2つに分けて交互に1フレーズずつ歌う（最初のグループが歌ったフレーズを、次のグループがすぐに歌う。1回行ったら順番を交代し、もう一度）

「気持ちよく歌合戦できたところで、今度は追いかっこをしてみましよう」「こんな風に遊びます」と言葉をかけ、リーダーとサブリーダーで輪唱の見本を見せる（2回程度続けて。同時終止はしない）

「それでは皆さんで楽しんでみましょう」と言葉をかけ、上記の2グループで2声の輪唱を行う。
(1回。リーダーは出だしの合図、サブリーダーは担当のグループと一緒に歌い支援する)

「こんな歌の楽しみ方を輪唱といいます。音が重なるときれいですね。もう一度練習してみましょう」
などと言言葉をかけ、再度2声の輪唱を行う(2回行ったら順番を変えてもう2回行う)

「ハーモニーがとても良かったです。虫の声も一段ときれいに聞こえました」などと肯定的な言葉をかけ、次回への意欲を高める。

プログラムの流れ・進め方(第3クール 1~5回程度の利用日の中で)

第1クールや第2クールのように、範唱・模唱で1回練習し、その後歌詞コールで支援しながら2回程度斉唱する。(同時発声・同時終止に留意する。また、同時終止の時に、最後の音を十分のばす)

「今日の虫の声もきれいですね。早速輪唱を楽しんでみましょう」などと言言葉をかけ、2グループに分かれ輪唱を1回行う(2回通して歌う)

「最初のグループの虫の声が澄み切ってきれいでした。後のグループも、負けずにきれいな虫の声を響かせてみましょう。では順番をかえて」などと言言葉をかけ、グループの順番をかえてもう一度輪唱を行う(2回通して歌う)

「合唱団をつくりたくなるぐらい、皆さん素晴らしい出来映えです。せっかくだから、もう少し高度なことに挑戦してみませんか。同時に終わることで、ハーモニーを楽しんでしまうやり方です」などと言言葉をかけ、リーダーの合図でサブリーダーが同時終止の輪唱の見本を見せる(2回程度続けて歌い、同時終止。音を十分伸ばす。終止の予備動作や合図も行う意志づける)

「どこで終わるのかはその時のお楽しみ。歌い終わりの練習をしてみましょう」と1フレーズずつ最後の音を伸ばして終わりのイメージを確認する練習を行う(1回)

「それでは一度挑戦してみましょう」などと言言葉をかけ、2グループでの同時終止の輪唱を1回行う(終止のタイミングは予備動作と終止の合図でしめす。先に説明はしない。後発のグループが2回歌ったところで終止するようにする)

「私の手の動きがだんだんとゆっくり大きくなったらそろそろ終わりかな、という合図です。手の平を閉じるまで最後の音を伸ばして見てください」などと予備動作と終止の合図を説明して、もう一度上記のように同時終止の輪唱を行う

「だんだんと本格的になってきました。終わるときには、他のグループの歌声にも耳をかたむけてみてください」などと言言葉をかけ、グループ間の順番変えてもう一度同時終止の輪唱を行う。

「皆さん筋がよいですね。合唱団も夢ではなさそうです」といった言葉をかけ、終了。

目標 と 工夫

目標は、援助の目的に利用者が近づいたことを客観的に把握できるような、具体的な利用者の状態や行動。

工夫は、そうした目標に向けた援助者の働きかけ（演出）。

目標：利用者の大半から、歌い終わったあとで自発的に拍手がわき起こる（達成感）

目標 に対する工夫

利用者の多くが気持ちよく斉唱できたという実感を持ってもらう

- ・ 範唱・模唱を活用して最初にしっかりと歌詞とメロディーを理解してもらう
- ・ 歌詞コールを活用して、利用者が自信を持って歌えるように支援を続ける
- ・ リーダーが、歌い終えた後にならず肯定的な言葉かけ（褒め言葉等）をする。
- ・ 同時発声・同時終止の合図を丁寧に行う。
- ・ 1回だけでなく、2回程度は繰り返し歌うようにする。
2声の輪唱が成立したという実感を持ってもらう
- ・ 斉唱を十分に行った後に、段階的に輪唱に近づけていく。
- ・ 言葉の説明ではなく、見本を見せてイメージをつかんでももらう
- ・ 歌い出しの合図をしっかりと行う
- ・ 2回程度は繰り返し歌い、終わりの音を十分に伸ばし余韻を味わえるようにする。
- ・ リーダーが、歌い終えた後にならず肯定的な言葉かけ（褒め言葉等）をする。
2声の同時終止の輪唱が成立したという実感を持ってもらう
- ・ 言葉の説明ではなく、見本を見せてイメージをつかんでももらう
- ・ 歌い出しの合図と終止の合図及び終止の予備動作をしっかりと行う
- ・ 2回以上は繰り返して、2つのグループの音が調和する時間を確保する。
- ・ 同時終止の時に、最後の音を十分に伸ばし、ハーモニーを味わえるようにする。

目標：数名の利用者が、グループの中で、音の高さやテンポ、終止のタイミングをあわせるために仲間の様子を見るようになる（協調性）

目標 に対する工夫

- ・ 仲間をリードするような歌声を出している利用者を中心に肯定的な言葉かけにより浮かび上がらせ、同じグループのメンバーが、その利用者にあわせるように意識づける。
- ・ 仲間に音の高さやテンポ、終止のタイミングをあわせようとしている利用者があるグループを中心に肯定的な言葉かけにより浮かび上がらせ、他の利用者がそうした行動をとるように意識づける。